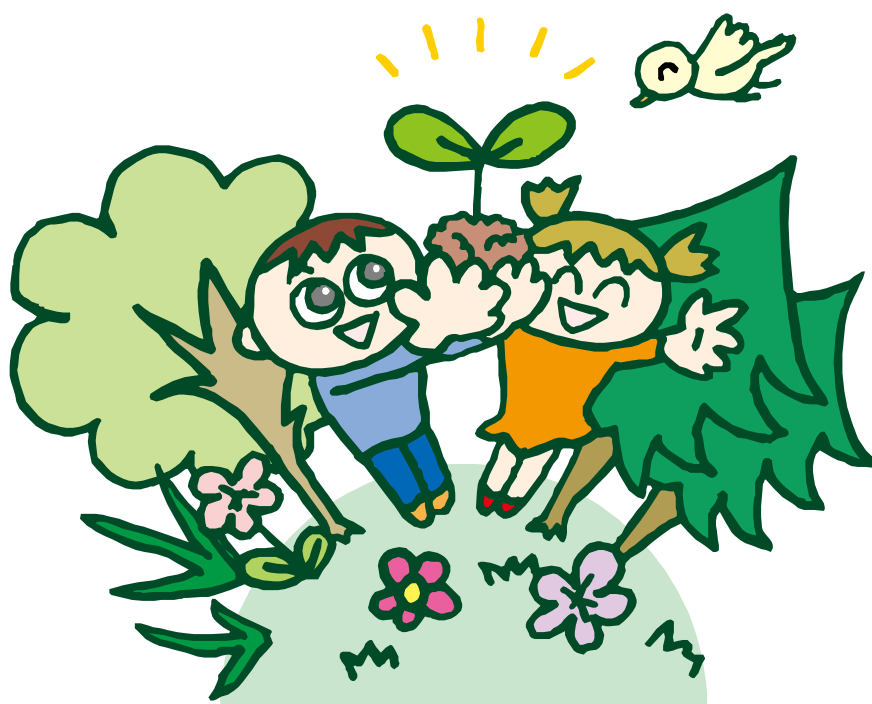


立川市 協働のまちづくり 推進事業補助金 報告書

令和4年度補助金交付対象事業（報告会版）



立川市
令和5年8月

協働のまちづくり推進事業補助金とは

この補助金は、市民力を生かしたまちづくりの実現のために、多様な団体が連携・協働し、地域課題解決を目指して自発的に取り組む公益的な事業を支援するための補助金です。

ここでは、下記の二つに区分して令和3年度に募集し、審査を経て令和4年度に実施した事業の内容を報告いたします。

- ・協働事業…市民活動団体等が市以外の他の団体と連携および協働し自発的に取り組む公益的な事業
- ・アイデア提案事業…市民活動団体等が市との協働を提案して取り組む公益的な事業

■令和4年度事業 活動報告 目次

事業名	応募団体名	ページ
気軽に立ち寄れる「よろず相談室」 ＜協働事業＞	代表団体：にしき傾聴クラブ	1
	協働団体：NPO 法人ブーゲンビリア・多摩ホスピスの会	
はじめてのおしばい～心豊かに育つには ＜アイデア提案事業＞	特定非営利活動法人 立川子ども劇場	6
	協働相手：立川市産業文化スポーツ部 地域文化課	
発達障害児の子育てを支える情報発信事業 ＜アイデア提案事業＞	キラリっ子ファミリーカフェ	12
	協働相手：立川市子ども家庭部子ども家庭支援センター	
多胎家庭を妊娠期から継続的に支え、 虐待を防ぐ活動 ＜アイデア提案事業＞	SwingRing（すいりん） ～ふたご応援プロジェクト～	17
	協働相手：立川市子ども家庭部子ども家庭支援センター	

※成果物等は、紙面の都合上、提出されたものの中から抜粋して掲載しています。

＜令和4年度 協働事業＞

気軽に立ち寄れる「よろず相談室」

補助金交付予定額： 128,200円

補助金交付額（実績）： 70,848円

代表団体名：にしき傾聴クラブ

協働団体：NPO 法人ブーゲンビリア、多摩ホスピスの会

気軽に立ち寄れる「よろず相談室」 事業報告書

【事業の概要】

実施期間	2022 年4月1日 ～ 2023年3月31日
事業の実績 及び内容 * 「実施回数」 「実施場所」 「対象者」 「実施内容」 「実施体制」 「実施方法」等を 具体的に書いてく ださい。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週1回、4団体が順番に相談室を開催した。 ・場所は、社会福祉協議会が借り上げている羽衣町の1軒屋を拠点として開催した ・対象者は、立川市市民及び近隣の住民であれば誰でも立ち寄り相談が可能 ・「傾聴クラブ」「NPO法人ブーゲンビリア」「立川市訪問看護連絡会」「多摩ホスピスの会」が毎週1回(木曜又は水曜)に(よろず相談室)の旗を立てて、立ち寄った人の健康や住まい、今後の介護や終末の相談に乗ってきた。 ・看板やチラシを配布したので、事前予約によって近郊から訪問する人も多かった。 ・会のイベントとして、市内病院のかかりつけ医、在宅医でもある藤井幹雄医師を囲んでの市民懇談会を開催した。市内在住の30名が参加し在宅医療、かかりつけ医に関して活発な意見交換が行われた。 ・終日の相談室を開催し、バザー、終活ノートの書き方講座を開催した。 ・特別月間として、7-9月に看護師による「暮らしの保健室」レクチャーを開催した。
一般参加・利用者 人数 * 団体・来場者数等	毎週2-3名の相談訪問があり、イベント参加の30名と合わせて110名の参加者となった。
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・「よろず相談室」の活動を通じて市内のボランティア4団体の交流と親交が深まり、市内の高齢者や障害者への支援活動の一層の進展に繋がった。 ・相談室にやってくるお年寄りや障害を持ったかたの話をじっくりと聴くことが出来、相談者は、日頃の医療機関、薬局の受診時には聞けない細かい相談にもものってくれることで大いに満足していた。 ・イベントでの高齢者介護や看取りの話題は参加者には大いに感銘をあたえた ・かかりつけ医との懇談会が大変好評であった。今後も市内の医療、看護、介護関係者と市民をつなぐイベントを開催したい。

気軽に立ち寄れる「よろず相談室」 自己評価書

自己評価書

<p>1 各団体が対等の立場で、相互の責任及び役割分担をもち、協力して取り組みましたか。(計画から実施・評価まで)</p>	<p>① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由 ・毎月4週名の木曜日は4団体の打ち合わせ会として、月の相談者の相談内容、今後の方針を常に話し合ってきた。</p>
<p>2 複数の団体と協働で事業を実施することにより、申請(計画)時に期待した効果をあげることができましたか。</p>	<p>① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由 ・4団体の活動を知り、各団体の年間活動へもお互いが参加するなど昨年度の親交を深める段階から更に実際の協働活動へ発展した。 ・立川市のボランティア活動の方向性等を話しあうことができた。 ・富士見包括、羽衣包括の協力によって活動が広まってきた</p>
<p>3 一般参加・利用者からは、どのような意見・感想がありましたか。</p>	<p>・医療機関受診時には時間が無くて聞けない話題にもこのよろず相談室では時間を掛けて応えてくれるなど安心感につながった。 ・かかりつけ医とは何かがよくわかった ・エンディングノートの書き方がよくわかった</p>
<p>4 今回実施した事業は、それぞれの団体の活動にどのような影響がありましたか。</p>	<p>・相談内容は終末期での医療、在宅医療・看護・介護の受け方過ごし方、遺産相続に関して、認知症の対応、看取り体験談等多岐にわたり話し合った。各団体の当番週には複数のスタッフが集まったため今後の会の活動方針など話し合う機会が増えたことが良かった。 ・患者団体であるNPO法人ブーゲンビリアの活動に他の3団体も参画しより幅広い市民交流が可能となった</p> <p>(協働団体) 実践者の健康リテラシーが上がり、今後の自身の医療・看護・介護に繋がる一つのきっかけの活動になった。次なるステップとして、ケアを通じて、市民にやさしい街づくりへ貢献する活動ができればと感じている。</p>
<p>5 その他「評価する点」・「反省点」・「課題」等をご記入ください。</p>	<p>・2023年度はWITHコロナとして、相談時に、お茶会、昼食会などを開催し、単なる相談では無く、近隣の引きこもりの高齢者などになごめる機会を提供したい。 ・他のボランティア活動や医療施設による啓発活動とは異なり、市民目線で活動を継続するボランティア集団となるように務める。</p>

気軽に立ち寄れる「よろず相談室」 収支予算・決算

収 入

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額
立川市補助金	128,200	70,848
団体負担金	28,200	0
寄 付 金	100,000	153,699
合 計	256,400	224,547

支 出

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	
補 助 対 象 経 費	講師等謝礼	120,000	94,000
	消耗品費	30,000	2,267
	印刷製本費	30,000	45,430
	通信運搬費		
	使用料	42,400	
	保険料	2,000	
	交通費	32,000	
	小 計(A)	256,400	141,697
その他	小 計(B)		82,850
合 計(A)+(B)	256,400	224,547	

気軽に立ち寄れる「よろず相談室」 報告会 Q&A

※報告会での審査委員との Q&A を掲載しています。

Q. 毎週の相談会の相談人数はどの程度か。

A. 個別相談が基本なので、毎回 2, 3 人程度である。少人数でじっくり話せることを特徴としている。

Q. 事業のチラシをどのような範囲で配っているか。

A. 近隣である錦と羽衣である。

Q. 補助金の返金額が発生している理由は何か。

A. プリント代や講師謝礼等で費用が発生したが、それほど費用を必要とせず
に事業を実施することができた。

＜令和4年度 アイデア提案事業＞

はじめてのおしばい～心豊かに育つには

補助金交付予定額： 500,000円

補助金交付額（実績）： 361,465円

団体名：特定非営利活動法人 立川子ども劇場

協働相手：立川市産業文化スポーツ部 地域文化課

はじめてのおしばい～心豊かに育つには 事業報告書

【事業の概要】

<p>実施期間</p>	<p>2022・10・9 ～ 2022・11・6</p>
<p>事業の実績 及び内容</p> <p>* 「実施回数」 「実施場所」 「対象者」 「実施内容」 「実施体制」 「実施方法」等を 具体的に書いてく ださい。</p>	<p>永野むつみさんの講演会(1時間)と乳幼児向け人形劇「かえるくんかえるくん」(45分)の同日開催で行う 実施回数と実施場所: ①10/9(日)西砂学習館 ②11/6(日)女性総合センターアイムホール それぞれ講演会と人形劇を1回ずつ同日に行う 対象者:0,1,2歳のお子さんとその保護者 実施内容:経験豊富な永野むつみさんから、何をみているか、考えているかわからない小さな人たちもちゃんと感じて劇を観ていることがその行動から読み取れること、演劇をはじめとする生の文化に触れることの重要性等を簡単なエピソードを交えて話していただく講演会。そのあと人形劇をみんなで鑑賞する。実施体制:事前準備、当日会場づくり、進行、片付けなどは立川こども劇場の会員が実施。実施方法:参加者は事前にQRコードからGoogleフォームへ申し込む、講演会は大人のための参加とし、その間保育を別室で行う。15分ほどの休憩をはさみ人形劇「かえるくんかえるくん」は親子で大人も子どもも一緒に楽しむ。当日は、地域文化課も参加し(11/6のみ)、一緒に会場づくりをし、親子の様子も見てもらった。</p>
<p>一般参加・利用者 人数</p> <p>*団体・来場者数等</p>	<p>①10/9(日)参加人数13世帯42名(大人19人・子ども23人) スタッフ15人 講師、演者4人 ②11/6(日)参加人数27世帯64名(大人37人・子ども27人) スタッフ19人 講師、演者4人</p>
<p>事業の成果・効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者(大人)向け講演会に保育をつけたことで、安心して講演を聞くことができて良かった。 ・今年度は永野むつみさんの講演と人形劇を同日開催にしたので、保護者は演劇中の子どもの様子も驚くことなくより子どもを理解することができて、家族みんなで楽しめた。 ・父親の参加者が以前より増えて、お子さんの反応を楽しめたのが良かった。 ・同日開催できたおかげで、保護者(大人)の人形劇への理解が深まった。 ・年齢にあった生の舞台を観ることで心を豊かにすることを感じ取ってくださった保護者の方がいたことは、大きな成果でした。 ・0歳からでも劇を観ることで心に感じたり、分かることがあるということを保護者の方がわが子の様子からそれを知ることができた事は大きな成果であった。 ・アンケートから今後もこういう公演に参加したいし、有料でも参加したいと考える方がいらっしゃることが分かって良かった。

はじめてのおしばい～心豊かに育つには 自己評価書

自己評価書

<p>1 各団体が対等の立場で、相互の責任及び役割分担をもち、協力して取り組めましたか。(計画から実施・評価まで)</p>	<p>① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由： 地域文化課、創造団体、立川こども劇場で最初に三者打ち合わせをして日時、会場、内容の確認をしっかりとやった。そこから企画運営は立川こども劇場が行い、きめ細やかな会場の手配、乳幼児健診でのチラシの配付許可や学習館へのチラシの送付、また、広報への掲載に関しては地域文化課が担って頂いた。また、開催当日も搬入から地域文化課から参加され協力して取り組めた。</p>
<p>2 複数の団体と協働で事業を実施することにより、申請(計画)時に期待した効果をあげることができましたか。</p>	<p>① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由： 立川こども劇場だけでは、知名度、信頼性、広報活動力に限界がある。地域文化課と協働することで、立川市全域の幼稚園、保育園にチラシ配付ができ、乳幼児健診では直接対象年齢の保護者の方と話しながらお伝えできることは大きい。また、市報に載ることにより高い信頼感を得ることができ、安心感のある広報ができた。</p>
<p>3 一般参加・利用者からは、どのような意見・感想がありましたか。</p>	<p>アンケートを参照ください</p>
<p>4 今回実施した事業は、それぞれの団体の活動にどのような影響がありましたか。</p>	<p>(実施団体) 今回1回目に西砂学習館で行い、立川市の中心部から離れた場所で開催した。小さな人たちが芸術文化に触れることの大切さを分かってもらうことにとってもいい手ごたえを感じたので、劇場独自の鑑賞活動の会場を今までやったことのない地域も視野に入れて探そうになった。</p> <p>(協働団体) 同日開催したことで、より一層小さな人が騒いだり、泣いたりすることは内容を感じていることからの反応、まさしく「共感力」の高さを大きな人(保護者)はより理解できたと思う。文化芸術の大切さを再認識した。</p>
<p>5 その他「評価する点」・「反省点」・「課題」等をご記入ください。</p>	<p>今回参加申し込みは、QRコードからGoogleフォームでの申し込みにした。とても簡単でアンケートも取れるので便利だった。しかし、10/9(日)は当日12件のキャンセル、11/6(日)は10件のキャンセルがあった。これは参加費無料の企画のため気軽に申し込み、気軽に欠席する結果ではないかと考察する。今後これを改善するにはどうするか考えて企画したい。</p>

はじめてのおしばい～心豊かに育つには 自己評価書

アンケート別紙

『はじめてのおしばい～心豊かに育つには』アンケート抜粋

〈講演会はどうでしたか〉

- ・体験の大切さを改めて実感しました。
- ・とても面白く興味深いお話でした!! 私たちがうばっているもの、時間、自然、そのとおりだと思います。本当に大切なものは目では見えない、大きなかぶの話、とても納得しました。
- ・忘れかけている大切な事を思い出させてくれるようなお話でした。
- ・ごめんねの気持ちを育てる時間を大切にするという考えは申請でハッとさせられました

〈人形劇を見たお子さんの様子はいかがでしたか〉

- ・よろこび、わらい、かなしみ、色々の感情をいつもより味わっていたように思います!
- ・しきりに指を差し興味しんしんでした。
- ・思っていたより反応がとても良く、良い経験になりました。
- ・あばれまわっていました。

〈お母さん、お父さんの感想はいかがでしたでしょうか〉

- ・人形劇、子どもとともに見るのができてよかったです。共通の体験でしか共通の話題はできないので、帰ったら子どもと話すのが楽しみです。
- ・子どもなりに一生懸命ストーリーを理解しようとしているんだなど、うれしく思いました。
- ・初めて子どもに見せましたが、良い反応をしていたので、一緒に見ている私も楽しかったです。

〈実際この企画に参加してみて、有料でもまたこのような催しに参加したいですか〉

- ・是非とも参加したい 9人
- ・機会があれば参加したい 10人
- ・内容によって 5人
- ・お金を払ってまでは参加したくない 0人

はじめてのおしばい～心豊かに育つには 収支予算・決算

収 入

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額
立川市補助金	500,000	361,465
会 費	88,480	0
合 計	588,480	361,465

支 出

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	
補 助 対 象 経 費	講師等謝礼	422,880	275,200
	消耗品費	25,400	41,795
	印刷製本費	22,500	22,620
	通信運搬費	30,300	17,740
	保 険 料	11,400	4,110
	小 計(A)	512,480	361,465
そ の 他	小 計(B)	76,000	0
合 計(A)+(B)	588,480	361,465	

はじめてのおしばい～心豊かに育つには 報告会 Q&A

※報告会での審査委員との Q&A を掲載しています。

Q. 講演会・演劇で各回の参加者の理想の人数の規模はどの程度か。

A. なるべく多くの人に参加してもらいたいが、参加者が多すぎると雰囲気を感じてもらいにくい距離や会場の問題があるので、50組程度と考えている。

Q. もっと色々な地域で実施することは検討しているか。

A. 来年度に向けて幸町・若葉町等の地域での実施を検討したが、実施するための施設が地域に無かった。地域文化課と協議しながらどのように子育て世帯へ届けていくか考えたい。

Q. 40世帯が事業に参加し、市の補助金が36万円程度なので、1世帯当たり9千円の補助は高いという印象がある。出来るだけ参加世帯が増えるようにしてほしい。

A. 頑張ってもらいます。

Q. 演劇等の準備期間はどの程度か。

A. 劇団と施設等との打ち合わせ等があるので、概ね2か月程度となっている。

Q. 幼稚園・保育園との協力体制はどうなっているか。

A. 幼稚園を会場にして人形劇をしていることもあるが、文化に対して興味を持つところが難しく課題である。保育園等で置きチラシだったものが、協力体制のもと一人一人の引き出しに入れてもらえるようになった。市や保育園等で深く協力して、文化に触れることができるようにしていきたい。

＜令和4年度 アイデア提案事業＞

発達障害児の子育てを支える情報発信事業

補助金交付予定額： 460,888円

補助金交付額（実績）： 375,022円

団体名：キラリっ子ファミリーカフェ

協働相手：立川市子ども家庭部子ども家庭支援センター

発達障害児の子育てを支える情報発信事業 事業報告書

【事業の概要】

実施期間	4.4.1 ～5.3.31
<p>事業の実績及び内容</p> <p>*「実施回数」 「実施場所」 「対象者」 「実施内容」 「実施体制」 「実施方法」等を具体的に書いてください。</p>	<p>●おしゃべり会の実施 単独2回（土曜開催…6/11砂川学習館、出前開催…9/6(火)西砂学習館） 子ども家庭支援センター主催で12回（子ども未来センター） ※情報発信の場としてキラリっ子ファミリーカフェが運営に参加</p> <p>●イベント、講座の実施 ・5/24（火）保護者交流イベント～生け花（子ども未来センター） ・7/23（土）森下由規子先生オンライン講座 ・7/31（日）夏休み親子交流イベント～工作（子ども未来センター） ・9/4(日)秋山邦久先生オンライン講座 ・10/22（土）就学に向けての保護者向け講座（子ども未来センター） ・2/7(火)青谷典子先生ミニ講座（こども未来センター） ・3/4(土)藤原里美先生オンライン講座 ※7、12月初めての方向けオンラインおしゃべり会…希望者無しのため実施せず</p> <p>●キラリっ子ファミリーカフェ通信の発行 11回（4月～2月） 市内小・中学教職員、学校支援員、子育てひろば・児童館 市内幼稚園・保育園・ドリーム学園、キラリプラス利用保護者 さくら学級五中支援級利用保護者、社協学童利用保護者、健康推進課</p> <p>●ブログ、グループLINE、Facebook、Instagramによる発信</p>
<p>一般参加・利用者 人数</p> <p>*団体・来場者数等</p>	<p>おしゃべり会…7～15名程度 保護者交流イベント…5名 森下先生オンライン講座…46名 親子交流イベント…3組 就学に向けて保護者講座…12名 青谷先生講座…8名 藤原先生オンライン講座…47名 グループLINE登録者…92名 ブログフォロワー…199名</p>
事業の成果・効果	<p>協働事業の最終年として、行政と協働で行うメリットと、情報発信において今後も重要となる活動が何かを確認できた1年となった。</p> <p>キラリっ子通信の配布が（協働事業となる前も含め）4年目となり、支援級や学童、健康推進課から配布希望を受けて対象が大幅に広がった。このようにニーズが高い実態を受け、来年度からは障害福祉課からの委託事業の一環として発行できることになった。</p> <p>グループLINEの登録者が90名を超え、本団体の情報発信を必要とする人たちの多さを確認できた。</p> <p>おしゃべり会については、やはり対面で行うことが大切だと参加者の声から実感できた。土曜開催や、未来センターから遠い地域での開催を希望する声も多く、今後も単独での開催を継続していきたい。</p> <p>講座については、オンライン開催の良さ（講師を呼びやすい、家を離れられない人や遠くの人も参加しやすい等）対面開催の良さ（少人数でワークショップのようにやりとりをしながら楽しめる等）それぞれが明確になったので、両方をうまく使い分けて実施していきたい。</p> <p>3年間の実績を踏まえ、生涯学習推進センターと子ども家庭支援センターとで講座を継続してくれることになった。また、賛助会員制度も5年度から導入する。協働事業における実績を今後活かしていきたい。</p>

発達障害児の子育てを支える情報発信事業 自己評価書

自己評価書

<p>1 各団体が対等の立場で、相互の責任及び役割分担をもち、協力して取り組めましたか。(計画から実施・評価まで)</p>	<p>① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由 講座の開催では、子ども家庭支援センターには、私たちに弱い「広報」「申し込みの対応」をしていただいた。行政が対応したことで、申し込み者に安心を与えられたのではないかと思う。また、会場手配もしていただけたことで、行政予約を使いスピーディに場所を抑えることができた。 通信の発行では、子ども家庭支援センターと教育支援課が校長会で紹介をしたり交換便での配布を引き受けてくださったおかげで、各学校にスムーズに受け入れてもらうことができた。 私たちの利点を最大限に活かしたのは、オンライン開催やSNSによる啓発活動、同課配信であった。コロナ禍で対面が困難だったとき、オンラインで動けたことが大きかった。</p>
<p>2 複数の団体と協働で事業を実施することにより、申請(計画)時に期待した効果をあげることができましたか。</p>	<p>① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由 子ども家庭支援センターや教育支援課と連絡を密にし、必要な時にはすぐに問い合わせをすることにより、保護者に必要な情報を正しく伝えることができた。また、保護者の声を教育支援課に伝えて対応を協議する機会もあった。以上から、行政との連携を保護者支援にうまく活かすことができたと考える。 市民団体だからこそこできるオンラインやSNSの活用が、コロナ禍においてとても重要な成果となった。行政主催の対面おしゃべり会ができないときにオンラインでのおしゃべり会を開催したり、家庭での勉強法やおススメ本の紹介など休校中に必要な情報をSNSで発信したり、それによって対面支援ができない緊急事態宣言中の保護者支援が途切れることなく実施することができた。</p>
<p>3 一般参加・利用者からは、どのような意見・感想がありましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おしゃべり会(初めての参加者から)「日々、孤独だなあと感じる場面が多々あり、皆さんとつながれることが本当にありがたいです」「子どもへの接し方に悩むことが多々…色んな方のお話が聞けたらと思います」 ・ペアレントプログラム…「具体的な子どもとの接し方を学べてよかった」「子育てが、気持ちが楽になった」「自分を肯定してあげたいと思えた」 ・講座…「事例を交えて分かりやすく教えていただき良くわかった」「今までとはちがった子どものかかわり方を知ることができた」「今後もこのような講座を開いてほしい(多数)」 ・進学進路についての座談会…「経験者の話、当事者の話が聞いてとてもよかった」「地元中心の情報が聞いて参考になった」「もっと幅広く、特別支援学校の話も聞けたらよかった」
<p>4. 今回実施した事業は、それぞれの団体の活動にどのような影響がありましたか。</p>	<p>キラリっ子ファミリーカフェにとって…行政と連携できたことで、私たちの保護者支援が、おしゃべり会にとどまらず、次の一歩である「どんな支援があるか」につながれるようになった。また、行政の広報やネットワークを使って、情報提供が幅広く行えるようになった。そのことによって、学校などの現場からも保護者からも、信頼を得られるようになったのではないかと感じている。</p> <p>(協働団体) 新型コロナウイルス感染症の影響が月ごとに大きく変動する中で、SNSやWeb会議システムを活用した情報発信において、迅速かつタイムリーに事業展開を行い、市民への啓発活動の充足につながった。また、交流会開催や通信発行を通じ、市民や関係各所に対し発達に関する知識や情報を定期的に発信したことで、行政サービスや地域資源など市民にとって必要な支援につながる契機となった。</p>
<p>5. その他「評価する点」・「反省点」・「課題」等をご記入ください。</p>	<p>1年目で、コロナ禍にもかかわらず、ほとんどの解決方策に取り組み、また効果をあげることができた。連携していただいた子ども家庭支援センター、教育支援課、生涯学習推進センターのお力は大きく、心より感謝している。私たちも、保護者のニーズや声を行政につなぐ役割をしっかりと担い、お役に立っていきたい。</p> <p>唯一、本の貸し出し事業がコロナ禍のため実施できなかった。コロナ禍の間は、SNSを使ったおすすめ本紹介といった形で取り組みたい。</p> <p>課題としては、私たち団体の継続力であると思う。全て保護者の無償ボランティアによるものであり、子育てや仕事で大変な中、どうしてもスタッフに負担がかかる。スタッフの増員と負担軽減が、今後の活動継続のために重要な課題である。</p>

発達障害児の子育てを支える情報発信事業 収支予算・決算

収 入

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額
立川市補助金	460,888	375,022
事業収入	5,000	4,000
合 計	465,888	379,022

支 出

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	
補 助 対 象 経 費	講師等謝礼	180,000	136,155
	消耗品費	44,102	66,849
	印刷製本費	32,130	40,320
	通信運搬費	46,368	61,550
	使用料	52,200	45,158
	保険料	5,000	2,000
	委託料	101,088	22,990
	小 計(A)	460,888	375,022
その他	小 計(B)	5,000	4,000
合 計(A)+(B)	465,888	379,022	

発達障害児の子育てを支える情報発信事業 報告会 Q&A

※報告会での審査委員との Q&A を掲載しています。

Q. 子ども家庭支援センターの支援が無いと中々思うような活動が出来づらいか。

A. 子ども家庭支援センター等の協力がなくても、おしゃべり会や講座を開くこと自体は可能である。ただし、保護者が子どもの発達障害に気づき苦しむのは、幼稚園、保育園、小学校、中学校であり、そこに支援情報を届けていくのは、市民団体の広報だけでは限界がある。SNS 等で事業について認知してもらっているが、情報に辿り着けない人やあまりよくない情報に惑わされる人もいる。その中で、市からの情報であることを信頼して、安心しておしゃべり会や講座に来てくれる人は多い。必要な人に支援情報を届けていくには行政ならではの安心感と広報力、また教育機関との連携が必要であると考えている。

Q. 補助金が無くても、行政の協力体制があれば運営できるか。

A. 会員制・会費制はとっておらず、民間や行政の助成金等で活動を行ってきた。支援を自分から求めに行くことができない孤立している保護者に届けるため、今後も会員制・会費制はとらないので、補助金は必要としている。ただし、やはり一番大事なのは、市の行政支援と連携していくことだと考える。

Q. 今まで助成金等を探してきたのは自力だったのか。あるいはどこから支援・アドバイス等はあったのか。

A. 自力で探しつつ、社会福祉協議会や子ども家庭支援センターが色々と情報提供を行ってくれた。ただし、7年間活動している間に使える助成金制度等はほとんど使ってきたので、今後申請できるところがあるかは大きな課題である。

<令和4年度 アイデア提案事業>

多胎家庭を妊娠期から継続的に支え、
虐待を防ぐ活動

補助金交付予定額： 496,000円

補助金交付額（実績）： 306,226円

団体名：SwingRing（すいりん）

～ふたご応援プロジェクト～

協働相手：立川市子ども家庭部子ども家庭支援センター

多胎家庭を妊娠期から継続的に支え、虐待を防ぐ活動 事業報告書

【事業の概要】

実施期間	2022・4・1 ～2023・3・31	
<p>事業の実績及び内容</p> <p>* 「実施回数」 「実施場所」 「対象者」 「実施内容」 「実施体制」 「実施方法」等を具体的に書いてください。</p>	<p>①ふたご手帖の配布 健康推進課と協働し、「ふたご手帖」を配布。 実施数：8件 実施場所：健康推進課 実施方法：保健師による妊婦面談時(5)、及び産後ケア申請時(1)の訪問。多忙・入院等の理由で面談ができない方へは郵送(2)。 対象者：多胎妊婦</p> <p>②プレファミリー講座の開催 実施回数：年3回(8/20・10/29・2023.2/11)に開催 実施場所：オンライン会議ツール「Zoom」使用 対象者：多胎を妊娠中の家族(祖父母まで含める) 実施内容：「妊娠出産の基礎知識/社会資源について/先輩双子ママの体験談/座談会」 実施体制：当団体からは当日司会と事務局のスタッフ2名と先輩ママ体験談を話してくれるピアサポーター、座談会に参加のピアサポーターの4名。子ども家庭支援センターの担当者、健康推進課の担当者で実施。 実施方法：当団体のHPやSNSで参加者を募集し、申し込み後、当日のZoomのURLをお知らせ。当日は自宅等から参加していただく。 終了後にアンケート実施。</p> <p>③ふたごキャラバン 実施回数：12月に1回開催(12/3開催) 実施場所：立川市都市軸(サンサンロード) 対象者：多胎家庭及び周りに多胎家庭がいる方、地域の方々 実施内容：・ふたごじてんしゃ試乗 ・ファミリー写真撮影 ・子ども縁日 【協賛出店】 ・みの一れ立川出店(立川産野菜販売) ・東京すくすく(みんなの子育てエピソードを募集) ・関東多胎ネット(ピアサポート体験) ・NPO法人 つなげる(ふたごのひろば体験) 実施方法：新型コロナウイルス感染対策のため各テントごとに距離をとって開催。本部を設定して、会場の案内、予約来場者の受付を実施(密を避けるため、ふたごじてんしゃ試乗、ファミリー写真撮影は完全予約制として実施した。)</p>	
<p>一般参加・利用者人数</p> <p>*団体・来場者数等</p>	<p>①ふたご手帖配布 8組 ②各回1組ずつ ③ふたごキャラバン 来場者数 800人</p>	<p>裏面に続く</p>

<p>事業の成果・効果</p>	<p>①ふたご手帖配布 今年度は、ふたごの妊娠届出数が減少し、配布数は昨年を半分以下となった。妊婦面接や郵送など妊娠早期にふたご手帖を配布できたため、アンケート結果からも配布時期は適切だったの回答が多く得られた。アンケート結果より、妊娠出産、授乳についての満足度は高かった。課題としては、父親やサポートに入る家族がふたご手帖を読んだという回答が少なかったことであった。また、生まれた後のふたごの赤ちゃんについてもっと知りたかったという声が多数あり、おしゃべり会やプレファミリー講座の内容の紹介もふたご手帖配布時にしていくことが望まれる。</p> <p>②プレファミリー講座 多胎ならではの妊娠・出産のリスクやそれについての備え、実際の育児の様子などを講座や体験談、座談会等で話すことで、抱えている不安が軽減され、今後のイメージを持つことができたと考えられる。それにより「生まれてくるお子さんを楽しみに待って準備をしてほしい」という当団体の願いが達成できたと思う。</p> <p>③ふたごキャラバン 3回目の開催となったふたごキャラバン。イベントを楽しみに待っていたと声をかけてくださる方がいた。多胎同士で繋がれる場として認知してもらえていることがわかり、開催した意義を感じることができた。初めて参加された多胎家庭も多く、たくさんの多胎家庭がいることを知り、当人同士でコミュニケーションを取ることができた。多胎児を育てる親の心が軽くなったり、また頑張ろうと励みに繋げることができた。</p> <p>今回は、会場にのぼり旗を設置したことで、多胎家庭でない方も通りかかった際に「何のイベントだろう？」と興味を持って、足を止めてみてくださった。多胎家庭について理解が深まり、多胎家庭に出会って困っていたら声をかけてみようと思ってくださった方が多かった。</p>
-----------------	---

多胎家庭を妊娠期から継続的に支え、虐待を防ぐ活動 自己評価

自己評価書

<p>1 各団体が対等の立場で、相互の責任及び役割分担をもち、協力して取り組めましたか。(計画から実施・評価まで)</p>	<p>① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由 ①ふたご手帖配布では、健康推進課と協働して配布が行えた。 ②プレファミリー教室では、子ども家庭支援センター、健康推進課と協働し、それぞれの担当の社会資源情報の提供をしてくださった。 ③ふたごキャラバンでは、子ども家庭支援センターと協働して実施できた。</p>
<p>2 複数の団体と協働で事業を実施することにより、申請(計画)時に期待した効果をあげることができましたか。</p>	<p>① できた 2 大体できた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由 ①ふたご手帖配布では、多胎家庭への支援は、妊娠期から準備が大切と考えている。今年度は、妊娠早期にふたご手帖を配布することができた。 ②プレファミリー講座では、健康推進課から対象者に直接ご案内をしてくださり、参加へつながった。 ③ふたごキャラバンでは、たくさんの多胎家庭が集まれる機会を作り、多胎家庭の孤立を防ぐための効果を上げることができた。</p>
<p>3 一般参加・利用者からは、どのような意見・感想がありましたか。</p>	<p>①ふたご手帖配布では高評価を得られた ②プレファミリー講座では、「不安が和らいだ」「実際の経験が聞けたのでイメージできた」「育児グッズでどれを買おうか悩んでいたが参考になった」等の感想が聞けた。 ③ふたごキャラバンでは「今回も楽しみにしてました」「たくさんの双子ちゃんにあえて嬉しい」「お揃いふくやグッズも買えて嬉しい」などの声をいただいた。</p>
<p>4 今回実施した事業は、それぞれの団体の活動にどのような影響がありましたか。</p>	<p>(実施団体) 多胎家庭を支援する団体があることを、妊娠期から知ってもらうことができた。また、これからふたごちゃんを迎える方と、直接お話することができたので、もしも出産後に困ったときは、相談先があることを知ってもらえた。また、これまで、知らなかった多胎家庭に知ってもらうことができたり、多胎家庭以外の幅広い世代の方に知ってもらうことができた。</p> <p>(協働団体) 【子ども家庭支援センター】 子ども家庭支援センターだけでは、対象者やニーズの把握、実施が難しい部分のある、多胎児家庭支援について、協働事業を通して、市民団体・健康推進課と連携することにより、適切なタイミングで適切な家庭に支援を届けることができた。 【健康推進課】 多胎児を妊娠・出産した家庭について、必要な支援等を行っていますが、実際に妊娠・出産・育児を経験している家庭について伝える機会があまりありませんでした。協働事業を通して、市民団体・子ども家庭支援センターと連携することにより、早い段階から安心して出産等できるメッセージを伝えることができたと感じている。</p>
<p>5 その他「評価する点」・「反省点」・「課題」等をご記入ください。</p>	<p>「評価する点」 ①ふたご手帖は、今年度は妊娠早期に配布することができ、多胎家庭の役に立った。ふたご手帖の配布は、妊娠中に多胎サークルや多胎支援事業について情報を提供するよい機会となった。 ②プレファミリー講座では、参加者が1組だったこともあり、参加者に寄り添って、それぞれの生活状況を伺いながらお話をすることができた。アンケート結果ではとても満足度が高かったため、開催した意義があったと思う。中には入院先から参加してくださった方もいて、オンライン開催の良さを実感できた。 ③・ふたごキャラバンはコロナ禍での開催であり、密にならないように感染対策をして開催できた。 ・昨年度から来場くださっているかたがおり、開催を楽しみに待っていてくれた。 ・多胎家庭だけでなく、他の一般の方への団体の認知度アップができた。</p> <p>「反省点」 ・開催時期が少し寒い時期になってしまったので、来場者数に影響があったと考えられる。 「課題点」 団体のSNSやホームページを用いての告知では情報が届かなかった。</p> <p>最後に 私たちだけでは、今回の3つの事業は達成できなかったと思います。協働してくださった子ども家庭支援センター・健康推進課の皆様にご心より感謝申し上げます。</p>

多胎家庭を妊娠期から継続的に支え、虐待を防ぐ活動 収支予算・決算

収 入

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額
立川市補助金	496,000	306,226
会 費	10,000	40,000
事業収入	20,000	5,000
講 師 料	10,000	
合 計	536,000	351,226

支 出

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	
補 助 対 象 経 費	講師等謝礼	330,000	198,700
	消耗品費	40,000	12,987
	印刷製本費	70,000	56,256
	通信運搬費	6,000	5,410
	使用料	6,000	3,440
	保 険 料	24,000	18,938
	ふたご手帳購入費	20,000	10,000
	手数料		495
	小 計(A)	496,000	306,226
その他	小 計(B)	40,000	45,000
合 計(A)+(B)	536,000	351,226	

多胎家庭を妊娠期から継続的に支え、虐待を防ぐ活動 報告会 Q&A

※報告会での審査委員との Q&A を掲載しています。

Q. 双子手帳の継続はよい成果だと思うが、その点についてどうであるか。

A. 2019 年に三つ子の虐待死事件があり、多胎への支援の世論が盛り上がり、都知事が多胎に特化した支援策を導入した。その結果市が支援を行いやすい環境にあったことが非常に大きかったと考える。

Q. 今年度で補助金が終了となるが、市への要望等は何かあるか。

A. これまでの活動の中で子育て支援の団体と繋がりができたが、その中で子どもの権利啓発や立川市の包括的支援をもっと行政と一緒に出来たらよいという話はしている。令和 7 年度に立川市に新しく施設ができるということもあり、そこに向けて行政と一緒に何ができるのか考えていき、色々な分野の方々と立川市に住んで良かったと思えるような活動をしていきたい。

令和4年度立川市協働のまちづくり推進事業補助金事業報告会
和田清美審査委員長 講評

ご報告お疲れ様でございました。今回4団体のご報告をお聞きして、皆様のご努力やご苦労といったものが感じられました。審査委員会を代表して、1団体ずつ講評させていただきます。

第1報告の「気軽に立ち寄れる『よろず相談室』」事業は、補助金を受けて2年目ということで、昨年度の反省から広報についての工夫をされ、気軽に立ち寄れる環境を3つの団体の協働で維持されていることがわかりました。支援を途絶えさせないという強い意思が伝わってまいりました。既に令和5年度の事業も始まっているとのことですので引き続き活動をすすめていただければと存じます。ご報告ありがとうございました。

第2報告の「はじめてのおしばい」事業は、地域文化課と協働し、特に文化の地域差という課題に取り組まれていることでした。令和3年度事業実施の反省から、実際にイベントを実施し、講演会と劇をセットで行うように改善されたところは非常に評価できます。ご報告ありがとうございました。

第3報告の「発達障害児の子育てを支える情報発信」事業は3年目で最終年度ということで、協働事業が済んだ後の自立、行政との関係、財政的なことも含めた自立について、問題提起をしていただきました。是非3年間で培った行政をはじめとする諸関係機関との連携の実績をもとに、さらなる活躍を祈念しております。ご報告ありがとうございました。

第4報告の「多胎家庭を妊娠期から継続的に支え、虐待を防ぐ活動」事業は、前報告と同様に3年目で本年度が最終年度の補助事業です。1年目、2年目と比較してさらに活動の幅が広がっていることが大変よくわかりました。また、補助金の終了を迎えるにあたり、行政と団体とが「委託」という形で、今後も引き続き協働を続けるというご報告がありました。ご報告ありがとうございました。

全ての団体に対し、審査員の方から審査及び報告時等に様々なコメントや質問があったかと思いますが、それらを是非今後の活動に活かして進んでいただければ幸いです。本日は長い時間最後までご参加いただきありがとうございました。全団体の皆様に感謝を申し上げて講評とさせていただきます。

報告会の詳細は、立川市ホームページへ

立川市ホームページ、立川市 YouTube チャンネルにて、報告会の詳細やようすを知ることができます。事業についてもっと知りたい方は、下記 QR コードよりご参照ください。



団体連絡先(敬称略・許可をいただいた団体のみ掲載しています)

- ◆にしき傾聴クラブ 中村 nakamura.sf@gmail.com
- ◆特定非営利活動法人 立川子ども劇場 小濱 tachikawa.kodomo.gekijo@gmail.com
- ◆キラリっ子ファミリーカフェ 中村 kiraricafe2017@yahoo.co.jp
- ◆SwingRing(すいりん) ～ふたご応援プロジェクト～
中川 swingringstaff@gmail.com

令和6年度実施事業を募集します

市民協働課では令和6年度実施事業を募集します。下記 QR コードより、募集案内をご参照ください。



連絡・問い合わせ先： 立川市市民生活部市民協働課
〒190-8666 立川市泉町1156-9（立川市役所2階）
Tel 042-523-2111（内線 2627） Fax 042-527-8074

*このプログラムに記載されている内容は、無断で転載しないでください。

令和5年8月作成